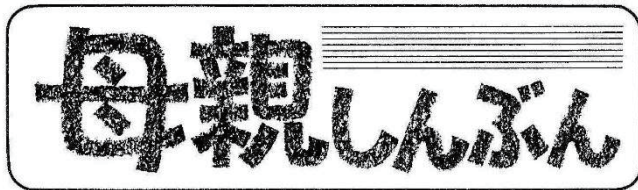


生命を生み出す母親は
生命を育て 生命を守る
ことをのぞみます



ニュース版

No.1

2026.1.27

日本母親大会連絡会

東京都千代田区二番町12-1 全国教育文化会館内 (〒102-0084)

電話03 (3230) 1836 fax03 (3230) 1837 ホームページ<http://hahaoyataikai.ai.jp>

第71回日本母親大会 in 宮城 杜の都仙台に集まりましょう！

1955年に開催され、68か国の母親が集った世界母親大会宣言は、「私たちは、戦争はいやです。私たちの声を今一段と強めましょう。軍備を止めてください！ 地上のすべての資源は、人間の生活向上に役立てられるべきです。しかし、私たちの希望を口に出すだけでは不十分です。目的を達成するまで行動しましょう。」と訴えました。そして、「すべての子どもは平



美しい景観の松島

等であり、同等の権利を有し、同様に保護されなければなりません。私たちの子どもを戦争から守るために、軍備廃止と、すべての国民の間の友情のために団結をくずさぬことをここに強く誓いましょう。」と宣言したのです。

改めて、この母親大会の原点に立ち、世界中から戦争をなくすこと、日本を戦争する国にさせないことに力をあわせていきましょう。第71回日本母親大会 in 宮城に全国から集い、平和を守り、一人ひとりの命輝く社会をもとめていきましょう。

「反戦・平和を希求すること」と「被災者支援・人道支援」は生命と生活を守るための車の両輪だと「女性災害学」の研究者浅野富美枝さんがおっしゃっています。

今年は、東日本大震災・福島第1原発事故から15年の年です。15年たとうとしている今も原子力緊急事態宣言はいまだに継続中であり、ふるさとに帰りたくても帰れない人々が約5万人もいます。

福島第一原発の廃炉作業も全く進んでおらず、たまり続ける汚染水は国内外の反対を押し切って海洋に放出し続けています。原発事故がいかに過酷で収拾がつかないものであるかは明らかです。原発のない社会をいまこそ実現する運動を広げていくことが大事だと思います。

日本列島各地で自然災害が多発しています。能登半島沖地震・昨年末の青森での地震災害、台風などによる風水害、大雪被害、森林火災など命と暮らしが脅かされる事態がおきています。

軍事費ではなく、被災地の復興や防災対策、そして気候危機対策にこそ、予算が使われ、命が守られる社会をとのぞみます。

今大会では、福島、宮城、岩手の被災地見学分科会を設けます。

被災地見学を通して、震災復興の現状やまだ残る課題を考え、災害からいのちが守られる社会を作るために学び、交流する大会にしていきたいと思います。

たくさんの皆さんが、杜の都仙台に来てくださることをお待ちしております。

宮城県母親大会連絡会会長 佐藤郁子